

稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウム開催報告

平成 30 年 3 月

本シンポジウムは、「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」の策定を記念するとともに、稲沢市が今後取り組んでいく『観光まちづくり』の方向性について市民と共有し、協働による取り組みに向けた気運の醸成を図ることを目的として開催しました。

■開催日時・場所等

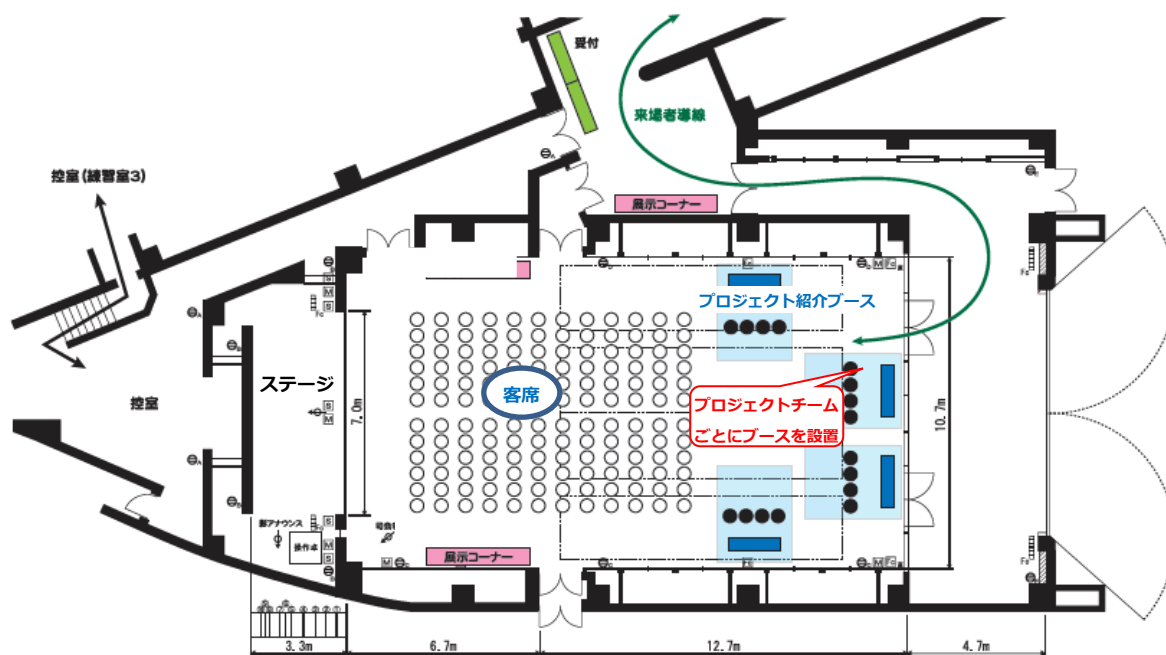
日 時	平成30年3月10日（土） 午後2時～午後4時10分（開場：午後1時30分）
会 場	名古屋文理大学文化フォーラム 小ホール
来場者数	158人

1 当日のプログラム

時間	内容	登壇者
14:00～14:05（5分）	あいさつ	稲沢市長 加藤 錠司郎
14:05～14:30（25分）	稲沢市観光まちづくり ビジョンの紹介	稲沢市経済環境部商工観光課長 澤田 雄一
14:30～15:00（30分）	基調講演	和歌山大学経済学部教授 （稲沢市観光基本計画策定委員会委員長） 大澤 健 氏
15:00～15:15（15分）	学生による祖父江イチョウ の研究発表	名古屋市立大学芸術工学部 建築都市デザイン学科 大野暁彦研究室 大橋 美紗希 さん
15:15～16:05（50分）	アクションプラン検討会議 によるプロジェクト発表	稲沢市観光基本計画 アクションプラン検討会議 メンバー
16:05～16:10（5分）	キックオフ宣言	名古屋文理大学情報メディア学部 情報メディア学科教授・地域連携センター長 栗林 芳彦 氏 尾張大國霊神社権禰宜 松田 雅之 氏 株式会社国分農園代表取締役 橋本 昌博 氏

【全 130 分】

■会場レイアウト



■会場の様子



2 稲沢市観光まちづくりビジョンの紹介

市商工観光課から、今回策定した「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」の概要について紹介しました。



3 基調講演

稲沢市観光基本計画策定委員会委員長を務めた和歌山大学経済学部の大澤 健教授に、観光まちづくりをテーマとした基調講演を行っていただきました。

■概要

講師	和歌山大学経済学部教授 大澤 健 氏
講師プロフィール	平成 22 年度より「あいち観光まちづくりゼミ」において座長として県内各地域から参加したゼミ生の企画コースへの助言等を行っているほか、平成 28 年度から「あいち観光戦略」策定のための有識者会議の副座長も務めた。今回「稲沢市観光まちづくりビジョン（第 2 次稲沢市観光基本計画）」の策定に向けて設置した、有識者や観光関係団体・事業者等で構成される「稲沢市観光基本計画策定委員会」の委員長を務めた。
タイトル	「さあ、市民の力で観光まちづくりをはじめよう！ 稲沢市の無限の可能性」

<講演内容のまとめ>

- 本来「観光用」じゃないもの（新しいネタ、ありのままの地域資源）を使った観光が全国的にブームになっている。
- しかし、新しい観光に取り組むと「地域をまとめることが困難」「集客効果がない・儲からない」「集客方法が分からない」「地域が消耗していく」といった困難に突き当たる。
- 観光に取り組む“目的”の問い直しが必要である。収益と集客を目的として「観光のために何をするか」ではなく、「何のために観光を使うのか」という目的を再確認・再共有する。
- 観光まちづくりで大事なことは「最初の入口」を間違わないこと。「観光のための地域づくり」ではなく、「地域づくりのための観光」が入口である。観光は目的ではなく、地域づくりの「手段」として活用する。
- これまでの観光は第 3 次産業の一部に過ぎなかったが、今後は全ての産業や地域全体を活性化する手段として活用していくことが重要である。
- 行政主導ではなく、地域資源を持っている住民と観光事業者が主体的な意欲と活動によって、住民がやりたいことを形にしていくことが重要である。
- 最も大事なことは、様々なアイデアをまずやってみること（＝バットを振ること）とアイデアを実行する人（＝バットを振る人）を増やすこと。



4 学生による祖父江イチョウの研究発表

名古屋市立大学の大橋美紗希さんに、祖父江町山崎地区におけるイチョウの配植形態とその過程に関する研究発表を行っていただきました。

■概要

発表者	名古屋市立大学芸術工学部建築都市デザイン学科 大野暁彦研究室 大橋 美紗希 さん
タイトル	「山崎地区におけるイチョウの配植形態とその変遷」

<発表内容のまとめ>

- 山崎地区におけるイチョウ配植の空間構造と形成過程を「実測調査」「ヒアリング調査」「航空写真の解析」「イチョウの計数」によって分析。
- 配植形態は屋敷の中心付近に植栽される「中心配置型」と敷地の端や屋敷の裏に植栽される「境界配置型」に分けられる。
- 境界配置型より中心配置型のイチョウの方が樹齢は長い。
- イチョウの樹形は自然発生する「主幹形・株立ち」と人為的に主幹を短く切られることで発生する「開心樹形」に分けられる。
- 開心樹形は2メートル以上の場合「栽培目的を持たず、人為的に主幹を切られる」、2メートル以下の場合「栽培目的を持って、人為的に主幹を切られる」ことが分かり、中心配置型と境界配置型等の植栽場所によって植栽意図が変化している。
- イチョウの本数や分布は近年急速に広がっており、時代背景とともに植栽場所も変遷していった。
- 植栽時期は、栽培目的としてイチョウが植栽され始めた1920年頃、終戦前後の1950年頃、バブル景気の1980年頃、イチョウの産地が全国で形成された2000年頃の大きく4期に分けられる。
- 結論として、「植栽時期が4期に分かれる」「植栽時期毎に植栽された場所が変化」「栽培など特定の目的を持たず植栽され始めたこと」が分かった。



5 アクションプラン検討会議によるプロジェクト発表

「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議」のメンバーが、今年度開催された計6回のワークショップを通じて創り上げた4つの観光まちづくりプロジェクトを発表しました。

- ① 始めにプロジェクトリーダー全員がステージに上がり、各プロジェクトの概要について紹介しました。
- ② その後、プロジェクトの詳細について順番にステージ上で発表しました。
- ③ 発表していないチームは会場後方に設置したプロジェクト紹介ブース（P2 会場レイアウト参照）を運営し、各プロジェクトの詳細を説明したり、今後の方向性を共有するなど、来場者とコミュニケーションを図りました。

■ プロジェクトリーダーによる概要紹介の様子



(1) 「稲沢まるごとイルミネーション」プロジェクトの発表

チーム名【オーズ】

メンバー【岡田、沖野】

<発表内容のまとめ>

稲沢市に縁のある LED を活用し、市民や企業等が連携することで市内全体をイルミネーションで彩るプロジェクト。

本プロジェクトによって、冬の稲沢市に人が集まる場所をつくり、まちを元気にしていきたい。また、市民や通勤・通学者でも国府宮を始めとする市内の素晴らしい場所に行ったことがないと言う人が多いため、イルミネーションを稲沢市の魅力に気付くキッカケにしていきたい。

イルミネーションの実施場所は、国府宮参道を皮切りに、他地区へと展開していく。また、SNS を活用した取り組みや、ナイトマルシェ等のイベントを行うことで、「稲沢市が面白いことを始めた」というインパクトとシビックプライドの醸成につなげていく。

市民や企業の方々には、まず「資金面」や「イルミネーションを飾る場所の提供」の部分でご協力いただきたい。皆で協力すれば、イルミネーションの点灯場所で日本一を目指すことができると思う。稲沢市内をイルミネーションで彩っていきたい。



(2) 「尾張国分寺跡&矢合から 歴道ウォーク」プロジェクトの発表

チーム名【緑も歴史もある稲沢】

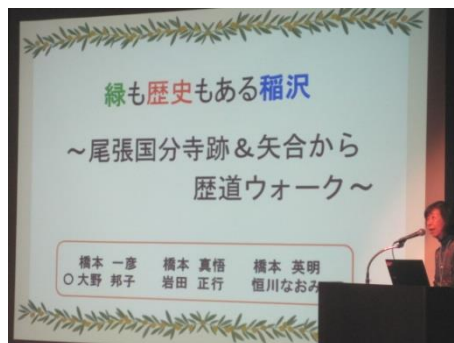
メンバー【橋本(一)、橋本(真)、橋本(英)、岩田(正)、大野、恒川】

<発表内容のまとめ>

“奈良時代の尾張国分寺跡”“鎌倉時代の矢合の植木”
“江戸時代の美濃路”を「歴道ウォーク」としてつなげていくプロジェクト。

稲沢市には多くの文化財があり、まちの魅力になっているため、観光を活用することで稲沢市の歴史を知ってもらいたい。例えば、江戸時代に美濃路を朝鮮通信使や象が通ったという記録が残っている。そうしたストーリーはあまり知られていないが、知ることによって、ただ歩くだけでは味わえない面白さが得られる。

これらのストーリーをガイドが紹介し、3つの時代が連なる歴道を大勢の人々が歩き、訪ね、交流することで、人々の心が豊かになり、稲沢の町がにぎにぎしく発展していくことを目指す。また、美濃路沿いにある旧郵便局の建物を活用して、現代の宿場・人々の交流拠点となる「(仮称)スマイルステーション」を設置したいと考える。(仮称)スマイルステーションの1階には矢合地区の花苗やミニ盆栽の販売スペースとガイドの案内所を併設し、2階は各種講座等が開催される交流スペースとする。今までのボランティアガイドの経験から、興味・関心のある人も多いと思う。



(3) 『「稲沢・サリオパーク祖父江」を世界へ!』プロジェクトの発表

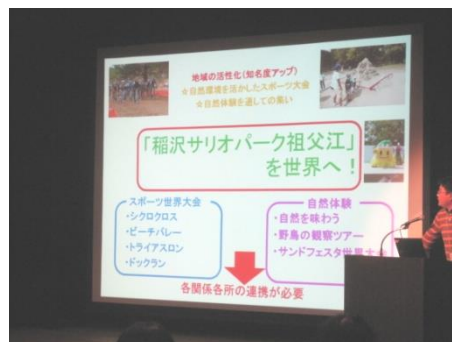
チーム名【「稲沢・サリオパーク祖父江」を世界へ!】

メンバー【北川、水谷(光)、橋本(昌)、水谷(浩)、松田】

<発表内容のまとめ>

稲沢市の魅力の一つである「サリオパーク祖父江」をフィールドとして、スポーツや自然体験を通じて地域の活性化を図るプロジェクト。

サリオパーク祖父江では既にシクロクロスの大会や野鳥観察会等が行われている。特にシクロクロスは、大人から子どもまで楽しむことができる自転車競技で、当地では東海地方で一番大きな大会も開催されている。これだけの規模のイベントが現在も行われているので、より多くの人々に親しんでいただくとともに、「走る」「泳ぐ」を加えたトライアスロン等にも発展させていきたいと考える。「稲沢市ならではの」「サリオパーク祖父江ならではの」イベントを通じて、稲沢市の知名度を上げていくとともに、イベント等を通じて関係各所のつながりもつくってきたい。



(4) 「つなごう・つながろう稲沢※」プロジェクトの発表

チーム名【つなごう・つながろう稲沢】

メンバー【友利、高村、清水、山内、樋江井、浪上、服部、伊藤、岩田(周)、瀬瀬】

<発表内容のまとめ>

現在市内で活躍している人々を通じて、稲沢市の魅力を発信するポータルサイト「いいな ざわざわ」を運営していくプロジェクト。

市民、NPO、外国人等の多様な主体が登録記者となり、稲沢の魅力、ニュース、活動情報を主体的に「いいな ざわざわ」に掲載する仕組みを構築する。

1つのホームページに稲沢市の様々な魅力が集まり、1つの記事から辞書を引くように他の関連記事が出てくる仕組みを構築し、今まで知らなかった情報に出会うことができるようにしたい。また、記事を掲載した市民記者の“顔”が分かるようにし、より身近なサイトとする。

情報が拡散しやすい“デジタル”と関連情報が入ってきやすい“アナログ”の良さをそれぞれ活かし、記事を「いいな！」と「ざわざわ」ボタンで情報拡散できるようにするとともに、読んだ記事と似た分野の関連記事が表示されるようにする。最終的には、市内外の人々が稲沢市の魅力と出会い、人と人がつながるポータルサイトにしていきたい。

「いいな ざわざわ」は4月1日から本格的に稼働していくため、多くの方に市民記者として協力をお願いしたい。



※本プロジェクトは、今年度「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議」の中で協議された「ざわざわつなぐ（稲沢市の多様な魅力に関わる人やファンの人をつないでいくプロジェクト）」から派生したプロジェクトです。

6 キックオフ宣言

「稲沢市が誇る観光資源」「多様な連携主体」「稲沢市が取り組む新しい観光を具現化するプレイヤー」を代表する3者から、「稲沢市は今後市民を中心に、関係機関・団体、民間事業者、大学、行政等が相互に連携・協働を図りながら、一体となって観光まちづくりに取り組んでいく！」という力強い宣言がされた後、クラッカー音と共に稲沢市の観光まちづくりがキックオフしました。

■キックオフ宣言の様子



■ 宣言者

組織・役職等	氏名
尾張大國霊神社 権禰宜	松田 雅之 氏
名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長	栗林 芳彦 氏
株式会社国分農園 代表取締役	橋本 昌博 氏

< 宣言内容 >

松田 雅之氏

- ・「国府宮はだか祭」をはじめ、国府宮で開催される様々なイベントへの誘客を図ることで、稲沢市が誇る「歴史・文化・祭り」をより多くの方々に知ってもらうよう努めていく。

栗林 芳彦氏

- ・「大学」という資源を活用し、若者を巻き込みながら、観光まちづくりによって稲沢市の活性化と情報発信に取り組んでいく。

橋本 昌博氏

- ・植木産業は厳しい状況が続いているが、本シンポジウムで様々な話を聞いたことで、「観光」という切り口による活性化のアイデアが浮かんできた。本日ご来場の皆さんもそう思われたのではないかと。ぜひ我々と一緒に力を合わせて、稲沢市を盛り上げていこう。

7 来場者の意見・感想（抜粋）

- ・ビジョンの策定、シンポジウムの開催にあたり、多種多様な多くの方々が参画されていること、さらに皆さんとても明るく前向きな思考であることが素晴らしく思った。
- ・稲沢市のまちづくりに大変興味がありました。
- ・正直今まで稲沢市のことをあまり知りませんでした。シンポジウムに参加してみて「これから来てみたい」、「もっと知りたい」と思いました。今から10年後が楽しみです。
- ・生まれ育った稲沢市が好きです。稲沢市から他県、他市に転出した人たちが「戻ってきたい」と思える産業が必要だと感じています。
- ・10年先を見越した計画を「市民や様々な団体を巻き込みながら市全体で作りあげる」という取り組みは良いことだと思います。
- ・市のホームページにリンクを貼るなど、活動状況などがもっと見つけやすいようにしてもらえるとありがたいです。そうすれば市民にも伝わるし、もっと活性化するのではないのでしょうか。
- ・「稲沢らしい」「稲沢ならではの」を追求してください。市民がまちの魅力を知り、好きになり、発信・活動をしていけば自然と元気になると思います。周辺市町との連携も欠かせません。仲間は多い方がパワーは増しますし、目標達成も早くなります。

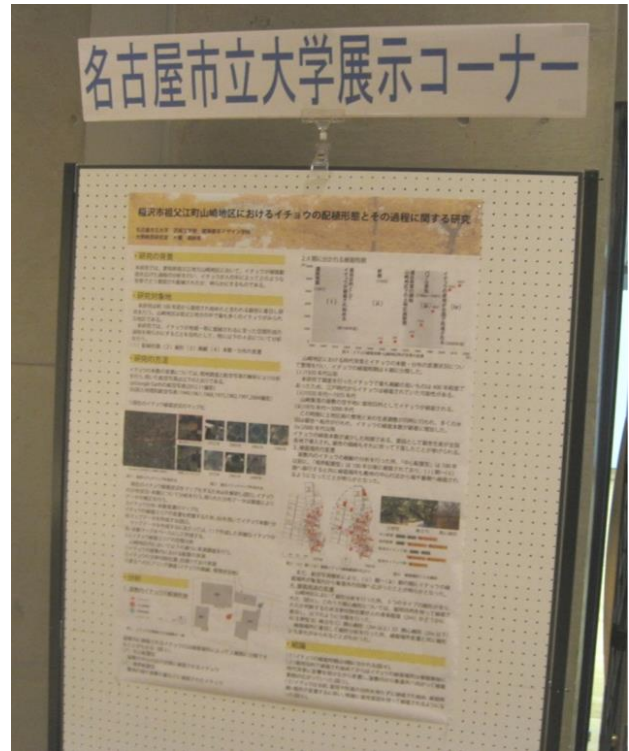
8 展示コーナー

会場入口前に、市内中学生による「ふるさと新発見学習」レポートの入賞作品（「観光」をテーマにした作品のみ）及び名古屋市立大学の研究資料を展示し、来場者の方々にご覧いただきました。

■「ふるさと新発見学習」 展示



■名古屋市立大学研究資料 展示



9 広報物

本シンポジウムの広報物として開催案内チラシを作成し、関係各所に設置・配布するなど、広く啓発に努めました。

■開催案内チラシ

稲沢市観光まちづくりビジョン
キックオフ シンポジウム その意味が分かります!

稲沢市では、この度「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)」を策定しました。ビジョンでは、今後予想される人口減少や少子高齢化に伴う様々な課題に対して、「観光」を活用して解決し、まちの活性化につなげていく「観光まちづくり」に取り組んでいくことを位置づけています。

そこで、ビジョンの策定とともに、観光まちづくりを進捗するキックオフとしてシンポジウムを開催します。ぜひご参加ください!

2018 3.10 申込不要 参加無料

会場 名古屋文理大学文化フォーラム 小ホール
 稲沢市立東山第三丁目114番地

時間 14:00~16:00 (開場13:30)
 定員 150名 (どなたでも参加可能)

PROGRAM

- 稲沢市観光まちづくりビジョンの紹介**
稲沢市における今後10年間の観光まちづくりの方向性を定めた「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)」の内容を紹介します。
- 基調講演**
タイトル:「さあ、市民の力で 観光まちづくりをはじめよう! 稲沢市の無限の可能性」
稲沢市観光まちづくり推進委員会 委員長 大塚 健 氏
講師: 稲沢山大学 経済学部 教授 大塚 健 氏
- 学生による 祖父江イチョウの研究発表**
タイトル:「山崎地区におけるイチョウの配植形態とその変遷」
発表者: 名古屋市立大学 芸術工学部 建築都市デザイン学科 大野穂積研究室 大野 穂積 さん
- アクションプラン検討会によるプロジェクト発表**
今年度開催した「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会」で立案された観光まちづくりプロジェクトを発表します。

主催:稲沢市 お問い合わせ:稲沢市観光課 TEL:0587-32-1332 FAX:0587-32-1240